

人と人を 繋げるお手伝い

文/サイトスパイラル ウェブディレクター 鷺見利江子

「ウェブディレクター」の名刺を差し出すと「何をする仕事なんですか？」と時折尋ねられる。ホームページを作る仕事だと説明すると「パソコン詳しいんですね。凄いですね」と感心されるが、いや、私が全て作っているわけではない。私の役割は、簡単にいえばホームページという家を建てる為の現場監督みたいなもの。まずは、お客様の要望を伺い、デザイナーやプログラマー、プランナーという専門家へ仕事を繋ぎ、進行状況や品質の管理をしながらホームページを完成させていくということである。

さて、私が「ウェブディレクター」として活動を始めたのは、20年余り勤めた会社を退社後のことだ。40歳、不惑の年に何を血迷ったのか、慣れ親しんだ会社でのキャリアとそれに伴う収入を捨てた(キヤー!)。それまでの仕事、家庭、子育てと目まぐるしく回り続けてきた人生をふとりセットしたいという思いに突き動かされたことだった。

なんとなく敷かれたレール(いや、自分で敷いたレール...)の上を無難に過ごしながらも、なんだか自分の使命は他にあるのではないかと模索する時期が誰にでもあると思う。

私も仕事についての使命探しをしたかったのだ。そして、次に選んだ仕事はウェブディレクターというわけだが…思うように収入に結びつかず、こんなはずでは…と少し後悔しながらも、きつどの仕事を選んだ意義があるはずだと自分に言い聞かせ頑張ってきた。4年が過ぎた今でも、まだ明確ではないが、少しずつ自分の役割がわかってきたような気がする。

それは、多くの友人たちから言わせると、私は「人と人を繋ぐ」役割をよく担っているというのだ。特に意識しているわけでもないのだが…ただ、「この人とこの人が出会ったら楽しいかも?」「あの人とあの人達ならビジネスがうまくいくのかも?」などと、時には直感的に、又は自然に人々を仲介すると、結果として沢山の繋

がり生まれ、「事」が動いたり、大の仲良しになったりと、私のまわりで「繋がる面白さ」を日々実感している。

「人の繋がり不思議」は私自身も常に感じていることで、人は必然的な縁によって引き合わされるのだと思う。縁のある人とは一度離れたとしても必ず巡り会う時期がやってくる。縁に気づいた時こそが始まりで、その人と繋がっていく意味をあらためて考えてほしい。

私たちは母親のへその緒に繋がって誕生した。生まれた後も、誰かと繋がっていくことを求めているのだと思う。誰も一人では生きていけないのだ。愛する家族によって自分の存在意義や生きる喜びを感じたり、気の合う仲間と楽しく過ごすことによってストレスが解消され、日々の充実感も得られる。縁のある人とは何らかの形で補いあっているものだ。縁があつて家族となり、知人となり、仕事やプライベートを通し社会と繋がっていく。時に苦しい出会いもあるが、それも意味があることだと思う。

ということで、魅力溢れる素敵な人同士の出会いは、多くの人を笑顔にするというこれまでの経験から、私は「人と人を繋げる仲立ち役」を自分の専門分野として意識していかうと決めた。自分の使命がそこにあるのだと思う。仕事の意義を認識した途端、未来は、ハッと明るくなつたように感じるものだ。

幸いにも、私の仕事場であるインターネットの世界はこの地球上、いや宇宙へも繋がっている。隣の席も、東京・NY・フランクフルト・そして宇宙ステーションへも距離に関係なくほぼ同時に繋がる。この職種はまさに天職!(だから転職した?)なんてオヤジギャグを言っている余裕はまだないが、お客様の思い描く家(ホームページ)を形にし、人々を繋げていくことはもちろんのこと、身近な人だけでなく、遠くにいる人も、異なる人種・文化も分け隔てなく、楽しみながら人と人を繋げるお手伝いをしていきたいと思う。

